

2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月9日

上場会社名 リゾートトラスト株式会社 上場取引所 東・名
 コード番号 4681 URL <https://www.resorttrust.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 伏見 有貴
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 業務部門管掌 兼CCO (氏名) 井内 克之 (TEL) (052) 933-6519
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け電話会議)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	128,601	7.6	11,080	25.1	11,476	1.3	14,907	74.3
2022年3月期第3四半期	119,493	△8.5	8,859	△42.3	11,333	△34.6	8,554	△11.5

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 19,346百万円(94.4%) 2022年3月期第3四半期 9,952百万円(△1.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2023年3月期第3四半期	円 銭 140.23	円 銭 —
2022年3月期第3四半期	80.30	74.59

2023年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2023年3月期第3四半期	百万円 434,310	百万円 122,989	% 27.0
2022年3月期	394,408	106,832	25.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 117,047百万円 2022年3月期 101,388百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年3月期	円 銭 —	円 銭 15.00	円 銭 —	円 銭 15.00	円 銭 30.00
2023年3月期	—	20.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	25.00	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	166,500	5.5	11,500	32.3	12,000	7.9	15,000	159.7	141.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 社(社名) 、除外 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	108,520,799株	2022年3月期	108,520,799株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	2,072,714株	2022年3月期	2,363,320株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	106,311,041株	2022年3月期3Q	106,528,404株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページをご覧ください。
- ・決算補足説明資料については、本日、当社ホームページ(投資家情報-IR資料)に「決算説明資料」を掲載いたします。(https://www.resorttrust.co.jp/ir/)

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

①当第3四半期連結累計期間の概況

	前第3四半期 連結累計期間 (実績)	当第3四半期 連結累計期間 (実績)	前年同期比
売上高	119,493百万円	128,601百万円	+7.6%
営業利益	8,859百万円	11,080百万円	+25.1%
経常利益	11,333百万円	11,476百万円	+1.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	8,554百万円	14,907百万円	+74.3%
(参考) 評価営業利益	16,121百万円	18,502百万円	+14.8%

[前年同期比]

前年同期には、緊急事態宣言が発出されておりましたが、当期は行動制限が無い中で、会員権事業においては、2022年3月に販売を開始した「サンクチュアリコート琵琶湖」、2022年10月に販売を開始した「サンクチュアリコート日光」のホテル会員権の販売が好調であったことに加え、ホテルレストラン等事業において、コロナ前よりもリゾート宿泊需要が大きく、ホテルの稼働率が急回復しました。また、メディカル事業においても、引き続き、健康志向の高まりを受けて、メディカル会員権の販売が好調であり、会員数の増加に伴う会費収入の積み上がり等が収益へ貢献したことなどにより、リゾートトラストグループ全体として、増収増益となりました。

(参考「評価営業利益」とは、未開業ホテルの会員権販売において、会員権代金の内「不動産代金」は、開業時に一括収益認識されることから、会計上、開業時まで繰延べられますが、その繰延利益が当会計期間中に計上されたと仮定した時の利益を表します。なお、加えて、メディカル会員権などの収益認識基準の影響も考慮し、当会計期間における実力値を示す経営指標として活用しております。)

[全体概況]

当第3四半期連結累計期間における、わが国経済は、ロシア・ウクライナ情勢の長期化等による、円安進行や資源価格、人件費などの高騰や、物価上昇などの影響が個人消費、企業活動で顕在化する中で、先行き不透明感が強まりました。このような環境下で、当社グループの状況は、前年度に引き続き、ホテル、メディカルの会員権販売が好調であり、会員制リゾートホテルへの宿泊需要がコロナ前を超える中で、グループ業績は急回復しました。

上記に加え、前年度末に一部ホテルの売却を決定したことに伴う「特別利益」約90億円が計上されたことなどにより、純利益は大きく進展しております。この結果として、売上高は128,601百万円（前年同期比7.6%増）、営業利益は11,080百万円（前年同期比25.1%増）、経常利益は11,476百万円（前年同期比1.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は14,907百万円（前年同期比74.3%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

②セグメントの業績概況

【会員権事業】

	前第3四半期 連結累計期間 (実績)	当第3四半期 連結累計期間 (実績)	前年同期比
売上高	31,355百万円	26,517百万円	△15.4%
セグメント利益	9,638百万円	8,617百万円	△10.6%

会員権事業においては、2022年3月から販売を開始した「サンクチュアリコート琵琶湖」の会員権販売が好調に推移したことに加え、2022年10月よりシリーズ第3弾「サンクチュアリコート日光」を発売開始し、開業するまでの間、繰延べられる不動産代金の売上高、原価が増加したこと、前年同期に比べ、利益率の高い既存会員権の販売量が減少したことなどのセールスマックスにより、減収減益となりました。

【ホテルレストラン等事業】

	前第3四半期 連結累計期間 (実績)	当第3四半期 連結累計期間 (実績)	前年同期比
売上高	56,018百万円	68,260百万円	+21.9%
セグメント利益	1,923百万円	5,420百万円	+181.8%

ホテルレストラン等事業におきましては、前年同期には、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言が発出され、移動制限がありましたが、当期は経済活動再開に伴い、特に、リゾートホテルの需要はコロナ前を超えるほどまでに高まったことなどにより、一部ホテル売却の準備コストがかかったものの、増収増益となりました。

【メディカル事業】

	前第3四半期 連結累計期間 (実績)	当第3四半期 連結累計期間 (実績)	前年同期比
売上高	31,593百万円	33,276百万円	+5.3%
セグメント利益	4,138百万円	4,463百万円	+7.9%

メディカル事業におきましては、総合メディカルサポート倶楽部「グランドハイメディック倶楽部」の会員権販売が順調であったこと、また、会員の増加に伴う年会費収入等の増加などにより、増収増益となりました。

【その他】

	前第3四半期 連結累計期間 (実績)	当第3四半期 連結累計期間 (実績)	前年同期比
売上高	526百万円	546百万円	+3.8%
セグメント利益	556百万円	536百万円	△3.6%

「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業等を含んでおります。

(2) 財政状態に関する説明

四半期連結会計期間末の資産、負債、純資産等の状況に関する分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は434,310百万円（前連結会計年度比10.1%の増加）となりました。これは、前連結会計年度末に比べ、会員権販売に伴い割賦売掛金が22,257百万円、会員制ホテル建設に伴い、仕掛販売用不動産が12,749百万円、ハワイのカハラホテルにおいて、会計方針の変更により、使用権資産が12,604百万円、それぞれ増加したことなどによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は311,321百万円(前連結会計年度比8.3%の増加)となりました。これは、前連結会計年度末に比べ、前受金が23,202百万円、会計方針の変更等により、長期リース債務が11,503百万円、それぞれ増加したことなどによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は122,989百万円(前連結会計年度比15.1%の増加)となりました。これは、前連結会計年度末に比べ、利益剰余金が11,143百万円増加したことなどによるものであります。その結果、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は27.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年11月9日付で、業績予想の修正を行っております。通期連結業績予想は以下のとおりです。

2023年3月期 通期連結業績予想数値(2022年4月1日～2023年3月31日)

	前連結会計年度 (実績)	当連結会計年度 (計画)	増減比	当連結会計年度 (期初計画)	期初計画比
売上高	157,782百万円	166,500百万円	+5.5%	161,000百万円	+3.4%
営業利益	8,693百万円	11,500百万円	+32.3%	9,200百万円	+25.0%
経常利益	11,123百万円	12,000百万円	+7.9%	8,800百万円	+36.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,775百万円	15,000百万円	+159.7%	10,800百万円	+38.9%
評価 営業利益	18,081百万円	20,800百万円	+15.0%	17,360百万円	+19.8%

わが国における今後の経済情勢につきましては、ロシア・ウクライナ情勢の長期化や新型コロナウイルス感染症の再拡大が与える影響が見通しにくく、エネルギーや資源価格、人件費の高騰などにより、厳しい環境が続くことが予想されます。

このような状況下、コロナ禍で得られたノウハウを活用して、新たな需要に応じていくことで、会員制ホテル事業とメディカル事業での更なる進化を目指します。2022年10月に、関東地区で新たなホテル開発を開始したほか、ホテル、シニア、医療の各施設で新たな商品・サービスを追求し運営力を高めてまいります。

なお、ロシア・ウクライナ問題に伴う当社グループへの直接的な影響はほぼないと想定しておりますが、急激な円安影響含め、食材、資材等の調達コストや、エネルギー価格の高騰に対しては、商品サービス内容を見直すなど適正な対応を行ってまいります。

上記のとおり、通期業績見通しについては、当社グループ全体として売上高166,500百万円(前年同期比5.5%増)、営業利益11,500百万円(同32.3%増)、経常利益12,000百万円(同7.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は、15,000百万円(同159.7%増)と増収増益を見込んでおります。

なお、不動産部分の繰延利益などを考慮した期間損益の実力値を示す「評価 営業利益」は、引き続き、高い水準を維持する予想です。

また、期末配当金の予想については、25円(予測)としております。中間配当金20円とあわせて、年間配当金の合計は45円(予想)となり、前年同期比で15円の増配を行う見込みであります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	28,794	30,620
受取手形、売掛金及び契約資産	9,609	11,584
割賦売掛金	33,155	55,412
営業貸付金	44,250	35,004
有価証券	3,601	11,582
商品	936	1,048
販売用不動産	5,896	5,049
原材料及び貯蔵品	1,262	1,791
仕掛販売用不動産	6,703	19,453
リース投資資産	-	4,309
その他	6,237	6,421
貸倒引当金	△909	△945
流動資産合計	139,538	181,332
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	102,551	98,889
機械装置及び運搬具（純額）	1,918	1,792
コース勘定	7,635	7,635
土地	48,860	43,569
リース資産（純額）	6,776	1,988
使用権資産	-	12,604
建設仮勘定	4,964	7,978
その他（純額）	3,193	2,949
有形固定資産合計	175,900	177,407
無形固定資産		
のれん	1,688	1,371
ソフトウェア	3,969	3,259
その他	1,921	1,860
無形固定資産合計	7,579	6,490
投資その他の資産		
投資有価証券	26,148	22,813
関係会社株式	1,331	1,325
長期貸付金	5,541	5,104
退職給付に係る資産	357	317
繰延税金資産	18,568	18,574
その他	19,923	21,364
貸倒引当金	△479	△421
投資その他の資産合計	71,390	69,079
固定資産合計	254,869	252,977
資産合計	394,408	434,310

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,354	2,158
短期借入金	8,799	1,419
1年内返済予定の長期借入金	18,587	11,492
1年内償還予定の社債	150	75
リース債務	1,147	1,537
未払金	8,711	9,679
未払法人税等	2,373	3,792
未払消費税等	2,736	2,466
前受金	63,728	86,930
前受収益	14,714	19,291
債務保証損失引当金	42	36
ポイント引当金	497	541
その他	10,511	10,315
流動負債合計	133,353	149,736
固定負債		
長期借入金	24,787	16,559
リース債務	11,406	22,909
繰延税金負債	640	333
株式給付引当金	380	547
退職給付に係る負債	2,613	2,800
長期預り保証金	30,030	29,968
償却型長期預り保証金	79,264	83,297
その他	5,100	5,168
固定負債合計	154,222	161,585
負債合計	287,575	311,321
純資産の部		
株主資本		
資本金	19,590	19,590
資本剰余金	21,616	21,452
利益剰余金	60,520	71,664
自己株式	△3,513	△3,063
株主資本合計	98,213	109,642
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,024	2,675
為替換算調整勘定	887	4,495
退職給付に係る調整累計額	262	234
その他の包括利益累計額合計	3,174	7,405
新株予約権	313	-
非支配株主持分	5,130	5,941
純資産合計	106,832	122,989
負債純資産合計	394,408	434,310

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	119,493	128,601
売上原価	16,506	14,436
売上総利益	102,987	114,165
販売費及び一般管理費		
給料及び賞与	37,363	41,212
役員退職慰労引当金繰入額	18	-
修繕維持費	2,907	2,900
貸倒引当金繰入額	50	45
水道光熱費	4,376	5,996
減価償却費	7,031	6,403
その他	42,380	46,524
販売費及び一般管理費合計	94,128	103,084
営業利益	8,859	11,080
営業外収益		
受取利息	663	758
受取配当金	61	60
持分法による投資利益	24	13
貸倒引当金戻入額	10	65
債務保証損失引当金戻入額	4	5
為替差益	3	4
助成金収入	2,265	128
その他	203	206
営業外収益合計	3,236	1,243
営業外費用		
支払利息及び社債利息	267	209
シンジケートローン手数料	12	42
控除対象外消費税等	345	320
その他	136	276
営業外費用合計	761	848
経常利益	11,333	11,476

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
特別利益		
固定資産売却益	224	9,044
関係会社株式売却益	14	0
投資有価証券売却益	-	8
新株予約権戻入益	-	313
助成金収入	6	-
株式給付引当金戻入額	1,628	-
その他	-	257
特別利益合計	1,873	9,623
特別損失		
固定資産売却損	28	16
固定資産除却損	32	317
関係会社株式売却損	-	0
投資有価証券評価損	-	64
新型コロナウイルス感染症による損失	9	-
その他	1	0
特別損失合計	72	400
税金等調整前四半期純利益	13,134	20,699
法人税、住民税及び事業税	3,733	6,172
法人税等調整額	677	△588
法人税等合計	4,411	5,584
四半期純利益	8,723	15,115
非支配株主に帰属する四半期純利益	169	207
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,554	14,907

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	8,723	15,115
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	192	651
為替換算調整勘定	1,049	3,607
退職給付に係る調整額	△12	△28
その他の包括利益合計	1,229	4,230
四半期包括利益	9,952	19,346
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,783	19,138
非支配株主に係る四半期包括利益	169	207

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(米国会計基準 ASC Topic842「リース」の適用)

第1四半期連結会計期間より、米国会計基準を採用している在外連結子会社においてASC Topic842「リース」を適用しています。これにより、リースの借手は原則としてすべてのリースを資産及び負債として計上することとしました。本基準の適用にあたっては、経過的な取扱いに従っており、会計方針の変更による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用しております。

当該会計基準の適用に伴い、第1四半期連結会計期間の期首において、流動資産の「その他」が120百万円減少し、有形固定資産の「使用権資産」が10,133百万円、流動負債の「リース債務」が328百万円、固定負債の「リース債務」が9,684百万円増加しております。

なお、これによる当第3四半期連結累計期間の損益及び利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	会員権事業	ホテルレスト ラン等事業	メディカル 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	31,355	56,018	31,593	118,967	526	119,493
セグメント間の内部売上高 又は振替高	80	2,123	201	2,405	1,092	3,498
計	31,435	58,142	31,795	121,372	1,618	122,991
セグメント利益	9,638	1,923	4,138	15,700	556	16,257

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業、別荘管理業等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	15,700
「その他」の区分の利益	556
全社費用 (注)	△7,397
四半期連結損益計算書の営業利益	8,859

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	会員権事業	ホテルレスト ラン等事業	メディカル 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	26,517	68,260	33,276	128,054	546	128,601
セグメント間の内部売上高 又は振替高	27	2,314	264	2,607	1,048	3,655
計	26,545	70,575	33,541	130,662	1,595	132,257
セグメント利益	8,617	5,420	4,463	18,500	536	19,037

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	18,500
「その他」の区分の利益	536
全社費用 (注)	△7,956
四半期連結損益計算書の営業利益	11,080

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。